



※一般質問の内容は議員自身が11月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和5年11月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。

※部長名は、紙面の都合上「部長」で統一して表記しています。



さいとう かずふみ

**齋藤 和文**

(公明会)

### プラスチックごみ分別について

**問** 自治会未加入者(外国人、アパートや別荘地域などに住んでいる方)への周知について。

**部長** 令和6年4月から始まる分別に対し、市民説明会、動画配信、SNSによる周知に加え、今後、自治会を通してチラシや分別冊子を配布予定である。その他外国人学校での説明会、6か国語の外国語版により周知していく。

**問** 自治体未加入者約3割への対応について。

**部長** 芝川地区では民生委員の協力を得て、配布対応したことがあるので、今後このような方法を検討し取り組んでいきたい。

### 使用済み紙おむつのリサイクルについて

**問** 一般ごみに占める割合等について。

**部長** 推計ではあるが、年間2,052t、焼却量に占める割合は5.7%である。

**問** 県の紙おむつリサイクルの動向について。

**部長** 県廃棄物リサイクル課の主催で、県内市町を対象とした使用済み紙おむつリサイクル研究会が立ち上がり、民間先進事例である株式会社スーパーフェイズ様の分別回収と燃料化の紹介と市町と連携実験の事例紹介があった。

**問** 市の紙おむつリサイクルの動向について。

**部長** 高齢化により使用済み紙おむつ排出量増加が見込まれる。今後、紙おむつを新たな分別品目として検討し、国、県、民間事業者の動向に注視し、技術面や費用対効果も注視していく。

### 清掃センターの今後について

**問** 清掃センターの焼却炉の寿命について。

**部長** 目標耐用年数を70年と定め、令和6年度以降も更新工事を行い、延命化していく。

**問** 県マスタープランを基にした市総合計画、一般廃棄物処理基本計画の方向性について。

**部長** 令和14年以降、富士市及び沼津市との広域化等の枠組みが示されており、今後両市とは広域化等の情報収集、意見交換を進めていく。



いわむら えみ

**岩村 恵美**

(キセキ)

### 有機農業(オーガニック)の推進と学校給食の活用について

**問** 有機給食を望む声がある中で、今までなぜ学校給食に有機食材を導入してこなかったのか、課題及び懸念事項を伺う。

**部長** ①変質や折れ破損のないもの。②納入の日時と量。③納入価格、限られた予算で必要な給食を賄わなければならないため。

**問** 学校給食が量的には難しいということであれば、保育園から始めてみるのはいかがでしょうか。

**市長** 例えば、白糸保育園は農業地帯にあるため、一定の地域を有機農業という形で推奨してやっていくことが一つの案。前向きに検討する。

**問** ゲノム編集を含む遺伝子操作された農産物が給食に使用されることはないのか。

**部長** 全ての食材に共通する事項として、遺伝子組み換え食品、ゲノム編集食品を避け、基本的に国内産原料、国内生産のものを優先し、ゲノム編集食品は納入しないようお願いしている。

**問** 当市における20年前、10年前及び現在の児童生徒の自閉症と診断された人数について。

**教育長** 自閉症と診断されたことを、保護者が学校へ申告する義務はないので、診断された児童生徒数を把握していないが、自閉症情緒障害の特別支援学級に在籍する児童生徒数は、20年前は20名、10年前は35名、今年度は62名。

**意見** 今、オーガニック給食がなぜ必要なのか、データの一つになるが、26年間で68倍、発達障がい児が日本では増えている。子どもたちの尿から農薬の残留物がでていることを考えても、今、かじを切るタイミングなのでは。

